

令和5年度認定 (No. 96)

農業名人

小ブナ養殖名人 たけはな 竹花 くに お 邦男

昭和18年生まれ 駒ヶ根市在住

「食文化を後世へ」



昔はフナや鯉、イナゴなどは貴重なタンパク源であったことから、稲田で鯉養殖・フナ養殖を行っており、最盛期では駒ヶ根市内で30件以上が養殖を行っていた。

竹花家では、親の代から稲田で鯉養殖・フナ養殖を行っており、養殖には60年以上携わってきた。農協勤務の傍らで養殖を行い、途中で稲田での小ブナ養殖から休耕田を利用した養殖に切り替えた。

小ブナ養殖は以下のとおり年間を通じての作業となる。

- ・4月中旬 飼育水田の整備
- ・5月末 親ブナの産卵（卵は5日位で孵化）
- ・5月末から8月 給餌（1日1回）、水量・水温管理、魚病対策
- ・8月から出荷まで 給餌（1日2回）、水量・水温管理、魚病対策
- ・8月下旬から10月上旬 出荷
- ・10月以降 親魚の養成

現在、JA上伊那フナ部会の部会員は10名、出荷量は例年5～6t、自身も例年、800kgを出荷している。

良質な小ブナを養殖するため、長年、試行錯誤を行って得た経験や知見を活かしつつ、病気・酸欠対策、水温・水量管理、給餌時刻などの飼育環境管理や日常管理に気を配っている。

小ブナ養殖は駒ヶ根地域や佐久地域で盛んだが、両地域で高齢化や後継者不足により減りつつある。貴重な食文化として絶やすことなく後世に残していきたいという思いで養殖に携わっている。

